

多自然川づくり取組事例

タイトル : 紫川水系における豊かな川づくり～誰でもできる多自然川づくりを目指して～		
水系 / 河川名 : 二級河川紫川水系 紫川	河川分類 : 中小河川	
河川の流域面積 : 113	整備計画流量 : 970m ³ /s	セグメント : 0
事業 : 維持管理	事業開始年度 : 令和年度	
目標設定 : 定性的	段階 : 0	
課題・目的(主な) : 貴重種、特定動植物の保全、水環境改善、瀬・淵の保全・再生・創出		
工法(主な) : 掘削(低水路)、掘削(河床)、管理ルールの設定		
配慮事項(主な) : 人材育成		

背景・課題、目標設定

〈背景〉

紫川では平成21年、22年の豪雨災害を受け、環境に配慮しながら河川改修事業を実施してきた。一定の効果はみられる一方で淵や止水域を好む魚種の減少がみられたことから令和5年度に検討会を設置し、今後の河川整備ではより一層の生物多様性を目指すことを目標として、環境対策PDCA(紫川再生計画)を打ち出した。また、令和6年度の維持管理の除草工事で、アブラボテの生息する細流の水際まですべて除草されたことから所内の情報共有が課題となった。

〈課題〉

- ・所内で希少種等の環境に関する情報共有がなされていない。また、認識されていない

〈目標〉

- ・今後の河川整備(河川改修、河川維持)においてより一層の生物多様性を図るため、職員誰でも多自然川づくりができるような仕組みづくりをおこなう。



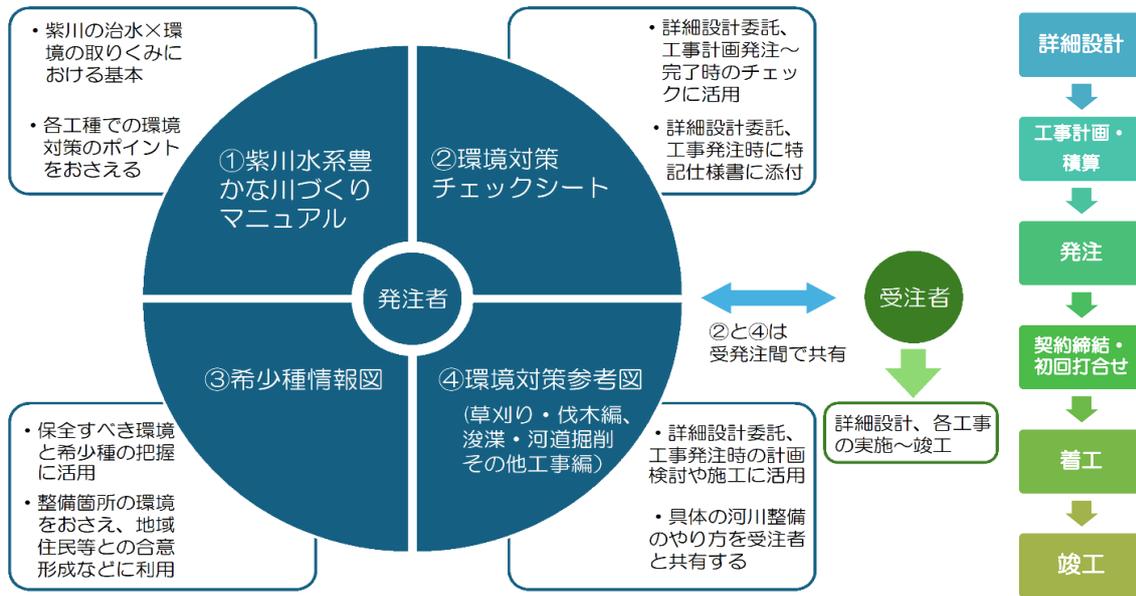
紫川 R6除草工事後のようす

取組内容・対策例(1/2)

- ・環境対策PDCAを実践していくために、4つのツールを作成し河川改修工事、河川維持工事の設計～竣工までの各段階で活用する。
- ・一部ツールは受注者(設計コンサルタント、施工業者)と共有することとし設計、施工での環境対策を行う。
- ・4つのツールを活用して取り組むためのスキームを作成し、所内のルール化を行う。
- ・マニュアルの使い方や取り組みの必要性、職員の多自然川づくりへの意識の醸成を目的とした研修会を北九州市と合同で実施した。

取組内容・対策例(2/2)

4つのツールと活用方法



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

〈実施の効果〉

- ・R7除草工事でマニュアル等のツールを活用したことで、水際植生を保全することができた。
- ・研修会を北九州市と合同で実施し河川整備における生物多様性保全の必要性について、職員の気づきや学びの場となった。

〈アピールポイント〉

- ・マニュアル作成と仕組みづくりにあたっては河川維持係、河川改修係で具体的な業務手順を踏まえた内容になるように協議し整理した。
- ・マニュアル等の作成にあたっては職員だけでなく、他機関の専門家や大学の有識者の意見をヒアリングし内容を整理した。
- ・紫川は福岡県と北九州市で区間を分け整備しており、北九州市が管理している支川もあるため。流域の取り組みとして、研修会を北九州市と合同で開催した。



紫川 R7除草工事後のようす



北九州市との合同研修会の様子

備考